



四万十町

町内「ぶら〜り」散策

奥打井川

おくうついがわ

打井川地区最終回は奥打井川である。打井川抜水橋から打井川に沿っておよそ4 km南下した辺りから奥打井川地区で、南限は黒潮町・佐賀である。峠の向こうに太平洋が見える。また、南西の峠を越えていくと中村・大用（おおゆう）へと向かう。このような位置にある奥打井川地区は、昔から佐賀や中村からの商人たちが、海産物をはじめ、様々な物品を持って登ってきた。上山郷へ商いに向かうための重要なルートの一つであったため、地区には商人たちが泊まる宿もあった。

さて、ここ奥打井川にはたくさんさんの神様が祀られている。産土神は河内神社であるが、ここには別の四社が合祀されている。六十余社、大元神社、三寶大荒神社、金刀比羅神社である。この四社、近年になって合祀されたのであるが、実は明治時代に一度、現在のように合祀されたことがある。その時は、四社を同時に合祀したのだという。すると、その頃から地区で病人が続出。「これは神様を一度に集めてしまったことが原因ではないか」ということになり、元の場所に戻したそうである。それから時代は流れ、現代になって高齢化が進み、再び合祀することになった。今度は一度に合祀することせず、一社ずつ徐々に集めることに。明治時代に一度集合し、一旦解散。そして近年になって再び集合したというわけである。ただし、大元神社だけは「本部」は元の場所にあるという設定らしい。地区の方にその理由を聞くと「大元さまが一番えらいから」ということであった。この四社の他にも、河内神社の境内には、山の神さまが祀られている。

まだある。道文神社である。鎌倉時代後期、後醍醐天皇と北条氏の鎌

倉幕府との間で起きた元弘の乱。この時、後醍醐天皇とともに幕府方によって捕らえられた尊良親王（たかよししんのう）という人がいた。後醍醐天皇の息子である。尊良親王は捕縛された後、土佐西部へ流されたのだが、その時に、都に残して来た姫君を呼び寄せるため、家臣の秦武文（はたけふみ）を派遣。しかし、姫君を連れて土佐へ向かう途中、海賊に遭遇し絶命。これを受けて今度は武文の弟の道文（みちふみ）が都へ向かうが、道文はこの奥打井川まで来たところで病に倒れ亡くなってしまった。奥打井川の民がこれを憐れみ、道文を祀ったのが道文（どうぶん）神社である。神社の境内に小さな祠のようなものもあるが、これは「奥泉庵」というお寺をここに移したもので、仏像六体が祀られている。

さらに、地区のちよとした高台に「楠吾郎霊社」という祠がある。これは、その昔、家地川から移り住んだこの地を切り拓いたという影井楠吾郎という人を祀っている。

奥打井川というところには、実に多くの逸話が残っており、そのひとつひとつを紐解くと、なるほどと膝を打ったり、思わず吹き出してしまったりと、当時の村人たちの息遣いが伝わってくるようである。



河内神社にある神輿。幡多地域で一、二を争う大きさだという。

町のうごき

(6月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,749	－11	男 0	11	8	8
女	8,503	－11	女 1	6	8	14
計	16,252	－22	計 1	17	16	22
世帯数	8,295	－5	(6月中の届出)			
窪川地域 11,532人		大正地域 2,245人		十和地域 2,475人		

四万十川の水質状況

	適正值(mg/l)	7月12日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.435
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	測定範囲以下
化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.30

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2021.8月号
Vol.185（毎月10日発行）

●発行／四万十町企画課 ●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123



本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。